

多胎児育児の現状から育児支援を考える

(分担研究：多胎児に対するケアのあり方に関する研究)

分担研究報告書

研究協力者： 大岸 弘子

要 約：多胎妊娠・出産をとりまく現状と、多胎児を育てる母親の意識を知る為に、全国規模のアンケート調査を行った。その結果、多胎妊娠・出産、及び、多胎児の育児方法について、専門家から十分な知識を得るチャンスも少ないまま、不安を感じながら過労状態で、育児を行っている母親の姿が認められた。今後医療・福祉面からも強力なバックアップと、具体的な育児支援が急務である。

見出し語：多胎児、育児支援、母親の意識調査

はじめに

本年は、多胎児育児支援について考えるために、全国規模でのアンケート調査を行い、どのような育児支援が必要かを検討した。

「目 的」

次のような事柄を目的として調査した。

1. 多胎児育児の現状を知る。
2. 多胎児育児上の悩みを知る。
3. 多胎児育児支援を考える。

「対象と方法」

ツインマザースクラブの会員で、0歳から就学前の多胎児を育てている保護者2,300人(転出先不明5人)に対し、郵送によるアンケート調査を行い、1,497通(65.2%)の回収を得た。

「結果」

1. 多胎児のうち、双子は1,456組で2,912人（95.8%）。三つ子は38組で114人（3.8%）。四つ子は3組で12人（0.4%）であり、合計3,038人（100%）であった。（図1）
2. 多胎児の年齢は、0歳以上1歳未満300人（9.9%）、1歳以上2歳未満638人（21.0%）、2歳以上3歳未満636人（20.9%）、3歳以上4歳未満514人（16.9%）、4歳以上5歳未満443人（14.6%）、5歳以上6歳未満359人（11.8%）、6歳以上7歳未満148人（4.9%）であった。（図2）
3. 母親の年齢は、20代296人（19.8%）、30代1,140人（76.1%）、40代55人（3.7%）、無回答6人（0.4%）であった。（図3）
4. 家族形態は図4のとおり、核家族が79.2%であった。
5. 多胎児出産後仕事に復帰した母親は286人（19.1%）であった。
6. 夫以外の家事や育児の協力者ありは911人（60.9%）で、協力者なしは580人（38.7%）、無回答6人（0.4%）であり、協力者ありのうち、祖父母、姉妹等の身内の者を協力者とする人は1,444人（88.7%）、友人、隣人、ベビーシッター等身内以外の者を協力者とする人は184人（11.3%）であった。（図5）
7. 流産・早産予防、妊娠中毒症等で入院した者は図6のとおり、入院した者1,021人（68.2%）、入院なしの者475人（31.7%）、無回答1人（0.1%）であり、入院した者の平均入院日数は41.5日であった。
8. 流産・早産予防、妊娠中毒症等の入院者数と妊娠週数は、図7のとおり、妊娠28週から妊娠36週の間に入院する者が多かった。
9. 出産場所は図8のとおり、総合病院で出産する者が1,034人（69.1%）で、産婦人科医院で出産する者の2.3倍であった。
10. 出産場所と多胎妊娠・出産についての説明は、図9のとおり、総合病院では149人（14.4%）、産婦人科医院では95人（21.0%）、助産所では一人（25.0%）が、多胎児妊娠や多胎児出産について説明を受けていなかった。
11. 双子の妊娠期間・出生時体重は表1のとおり、出生時体重の判明している2,880人のうち、2,500g以下の出生時体重は1,730人（60.1%）、2,000g以下の出生時体重は521人（18.0%）であり、妊娠期間の判明している2,862人のうち、妊娠36週から39週の出産が2,072人（72.4%）であった。
12. 三つ子の妊娠期間・出生時体重は表2のとおり、114人のうち2,500g以下の出生時体重は110人（96.5%）、2,000g以下の出生時体重76人（66.7%）であり、妊娠32週から35週の出産が69人（60.5%）であった。
13. 四つ子の妊娠出生時体重は表4のとおり、2,000g以下の出生時体重12人（100%）であり、妊娠28週から31週の出産が8人（66.7%）、妊娠32週から35週の出産が4人（33.3%）であった。

14. 多胎妊娠を対象とした母親学級・保健指導は図10のとおり、受けなかった者は1,442人(96.3%)であった。
15. 多胎児を対象とした育児学級・育児指導は図11のとおり、受けなかった者は1,423人(95.1%)であった。
16. 多胎児育児知識は図12のとおり、医療従事者から得たとする者は、94人(3.6%)で、医療従事者からの知識修得は極めて少なかった。
17. 年齢別・多胎児別・月平均育児費用は、表4のとおり、双子は月平均8万円、三つ子は月平均9万円、四つ子は月平均10万円であった。
18. 育児支援のための来訪者の希望職種は、図13のとおり、多胎児の母975人(33.1%)、看護婦・保健婦695人(23.5%)、ベビーシッター458人(15.5%)、保母423人(14.3%)、ホームヘルパー375人(12.7%)であった。
19. 多胎児年齢別・母親のこころと身体の状態は図14のとおり、20項目について調査を行った。
 - (1)「睡眠がとれない」では、多胎児が、0歳から1歳まで1,017人(75.6%)。1歳から2歳まで248人(21.8%)。2歳から3歳まで68人(8.5%)の者が、しばしば睡眠がとれないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
 - (2)「身体的疲労が大きい」では、多胎児が0歳から1歳まで952人(71.3%)。1歳から2歳まで508人(44.8%)。2歳から3歳まで203人(25.4%)の者が、しばしば身体的疲労が大きいと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
 - (3)「精神的疲労が大きい」では、多胎児が0歳から1歳まで802人(60.0%)。1歳から2歳まで444人(39.2%)。2歳から3歳まで228人(28.5%)の者が、しばしば精神的疲労が大きいと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
 - (4)「自分の時間がとれない」では、多胎児が0歳から1歳まで1,005人(75.2%)。1歳から2歳まで601人(53.2%)。2歳から3歳まで289人(36.3%)の者が、しばしば自分の時間がとれないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
 - (5)「子供を放りだしたくなる」では、多胎児が0歳から1歳まで244人(18.2%)。1歳から2歳まで120人(10.6%)。2歳から3歳まで65人(8.2%)の者が、子供を放りだしたくなるとしばしば思うと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
 - (6)「何もしたくない」では、多胎児が0歳から1歳まで238人(17.8%)。1歳から2歳まで125人(11.1%)。2歳～3歳まで61人(7.7%)の者が、何もしたくないとしばしば思うと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。

- (7)「育児方法がわからない」では、多胎児が0歳から1歳まで328人(24.5%)。1歳から2歳まで137人(12.1%)。2歳から3歳まで60人(7.5%)の者が、しばしば育児方法がわからないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (8)「育児が楽しくない」では、多胎児が0歳から1歳まで198人(14.8%)。1歳から2歳まで77人(6.8%)。2歳から3歳まで38人(4.8%)の者が、しばしば育児が楽しくないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (9)「育児協力者がほしい」では、多胎児が0歳から1歳まで693人(51.9%)。1歳から2歳まで425人(37.7%)。2歳から3歳まで181人(22.7%)の者が、しばしば育児協力者がほしいと思うと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (10)「外遊びの時間がとれない」では、多胎児が0歳から1歳まで556人(41.9%)。1歳から2歳まで248人(22.0%)。2歳から3歳まで89人(11.2%)の者が、しばしば外遊びの時間がとれないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (11)「多胎児でなく一人であつたら」では、多胎児が0歳から1歳まで313人(23.4%)。1歳から2歳まで151人(13.4%)。2歳から3歳まで64人(8.1%)の者が、しばしば多胎児でなく一人であつたらと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (12)「子供がかわいくない」では、多胎児が0歳から1歳まで68人(5.1%)。1歳から2歳まで27人(2.4%)。2歳から3歳まで15人(1.9%)の者が、しばしば子供がかわいくないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (13)「一人の子供しかかわいくない」では、多胎児が0歳から1歳まで17人(1.3%)。1歳から2歳まで8人(0.7%)。2歳から3歳まで6人(0.7%)の者が、しばしば一人の子供しかかわいくないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (14)「孤独感におそわれる」では、多胎児が0歳から1歳まで228人(17.0%)。1歳から2歳まで114人(10.1%)。2歳から3歳まで40人(5.0%)の者が、しばしば孤独感におそわれると答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (15)「多胎児以外の子の世話ができない」では、多胎児が0歳から1歳まで213人(33.0%)。1歳から2歳まで118人(21.6%)。2歳から3歳まで57人(13.7%)の者が、しばしば多胎児以外の子の世話ができないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (16)「多胎児を生んでよかった」では、多胎児が0歳から1歳まで516人(38.7%)。1

歳から2歳まで510人(45.2%)。2歳から3歳まで422人(52.8%)の者が、しばしば多胎児を生んでよかったと思うと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれてやや増加の傾向にあった。

- (17)「いたずらに手をやいている」では、多胎児が0歳から1歳まで173人(13.2%)。1歳から2歳まで360人(32.0%)。2歳から3歳まで234人(29.5%)の者が、しばしばいたずらに手をやいていると答えており、多胎児が2歳と3歳をピークとし、多胎児が4歳、5歳、6歳になるにしたがい減少傾向にあった。
- (18)「夫婦関係が悪くなった」では、多胎児が0歳から1歳まで143人(10.7%)。1歳から2歳まで97人(8.6%)。2歳から3歳まで51人(6.4%)の者が、夫婦関係が悪くなったとしばしば思うと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (19)「夫の世話ができない」では、多胎児が0歳から1歳まで348人(26.1%)。1歳から2歳まで184人(16.5%)。2歳から3歳まで81人(10.3%)の者が、夫の世話がしばしばできないと答えており、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。
- (20)「経済的出費がかかる」では、多胎児の年齢と関係なく経済的出費がかかるとしばしば思う者の割合が高い。

20. 行政からの支援希望内容は表5のとおりで、一番必要だと思う支援を三つ希望する順に選択してもらったところ、一番目に希望の第1位は「経済的支援」。二番目に希望の第1位は「多胎児妊婦や多胎児を育てている父母を対象とした子育て学級等の充実」。三番目希望の第1位は「病院受診、保健所での健診、予防接種を受ける時等の外出支援ヘルパー」であった。

また、回答数の一番多かった順に支援希望を見ると、第1位は「経済的支援」。第2位は「病院受診、保健所での健診、予防接種を受ける時等の外出支援ヘルパー」。第3位は「多胎児妊婦や多胎児を育てている父母を対象とした子育て学級等の充実」であった。

「考 察」

調査結果から、多胎妊娠から出産までに、68.2パーセントの者が、平均41.5日もの長期にわたり入院していた。また出産場所で多胎妊娠あるいは出産についての説明を受けなかった者は、総合病院では14.4パーセント、産婦人科医院では21.0パーセント、助産所では25.0パーセントであった。予想される危険に対して、どのように予防をすればよいか等の指導や、不安を軽減する為のカウンセリングの強化が必要である。

多胎妊娠した者を対象とした「母親学級・保健指導」を受けなかった者は96.3パーセント、多胎児を育てている保護者を対象とした「育児学級・育児指導」を受けなかった者は95.1パーセントで、多胎妊娠をした者や、多胎児を育てている保護者を対象とした「母親学級・保健指導」「育児学級・育児指導」は、病院、診療所、助産所、保健所等で一部実施している機関を除いて、ほとんど実施されていない現状であることが判明した。

「母親のこころと身体の状態」は、(1)「睡眠がとれない」、(2)「身体的疲労が大きい」、(3)「精神的疲労が大きい」、(4)「自分の時間がとれない」、(5)「子供を放りだしたくなる」、(6)「何もしたくない」、(7)「育児方法がわからない」、(8)「育児が楽しくない」、(9)「育児協力者がほしい」、(10)「外遊びの時間がとれない」、(11)「多胎児でなく一人であったら」、(12)「子供がかわいくない」、(13)「一人の子供しかかわいくない」、(14)「孤独感におそわれる」、(15)「多胎児以外の子供の世話ができない」、(16)「夫婦関係が悪くなった」、(17)「夫の世話が出来ない」以上20項目中17項目については、多胎児が0歳から1歳をピークとし、「しばしば思った」と答える者が多く、多胎児の年齢が高くなるにつれて減少傾向にあった。多胎児の生活リズムも確立し、しっかり歩行が出来、コミュニケーションの確立する3歳位までは、育児支援ヘルパーが必要であるが、緊急的には0歳から1歳までの多胎児を育てている家庭に対して、公的な育児支援ヘルパー制度が必要である。

「経済的出費がかかる」は多胎児の年齢と関係なく経済的負担の大きさがうかがわれた。また行政からの支援希望の第1位は「経済的支援」であり、多胎児であるがゆえに、一度に負担となる出費について、公的に援助することが可能な内容はないのかをさらに検討する必要がある。

以上のことから、次のことが必要と考えられる。

- (1) 多胎妊娠・出産についての説明と、不安を軽減する為のカウンセリングの強化。
- (2) 多胎妊娠をした者や多胎児を育てている保護者を対象とした「母親学級」「育児学級」の開催。
- (3) 0歳から1歳までの多胎児を育てている家庭に対して、公的な育児支援ヘルパー制度の確立。
- (4) 多胎児育児の情報提供の強化。
- (5) 経済的支援に対する検討。

(6) 多胎児育児に関する保健指導指針の確立。

(7) ツインマザースクラブ等の活動に対して、行政の支援と連携強化。

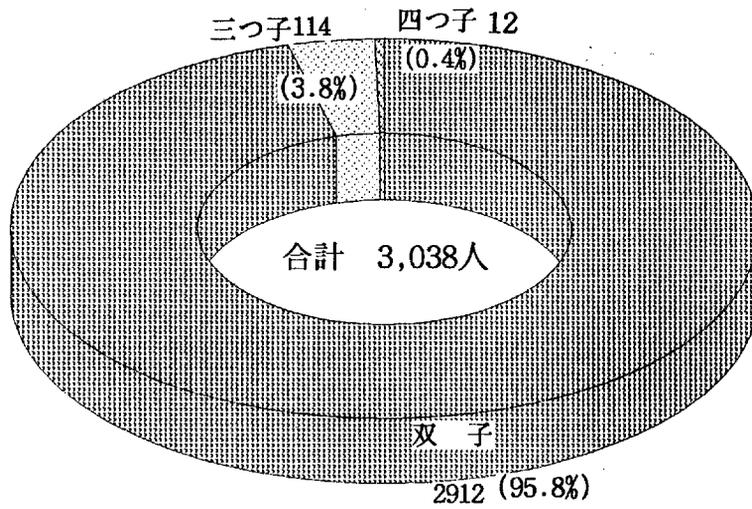


図1. 多胎児内訳

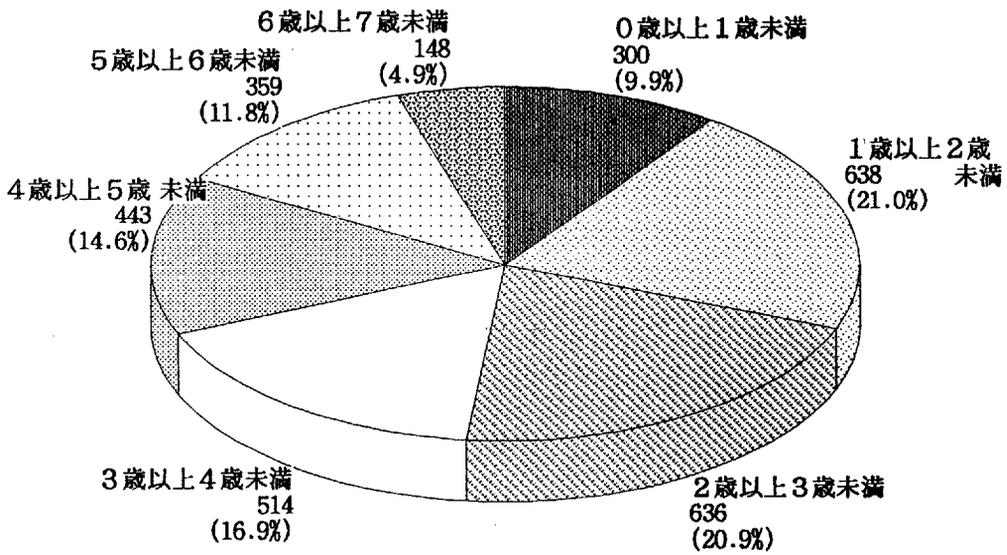


図2. 多胎児年齢別内訳

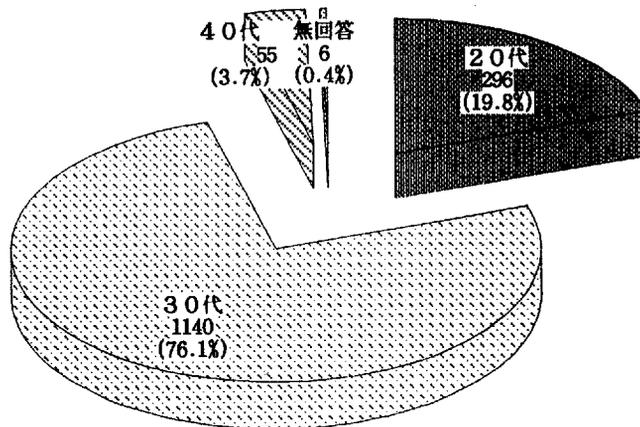


図3. 母親の年齢

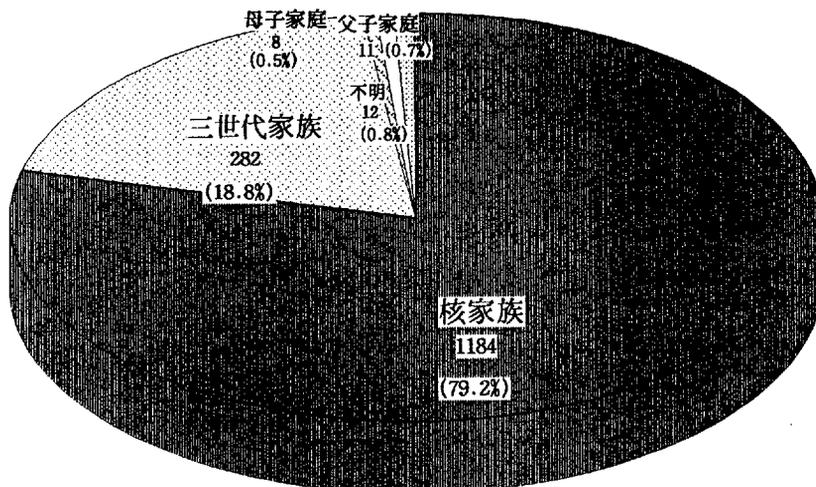


図4. 家族形態

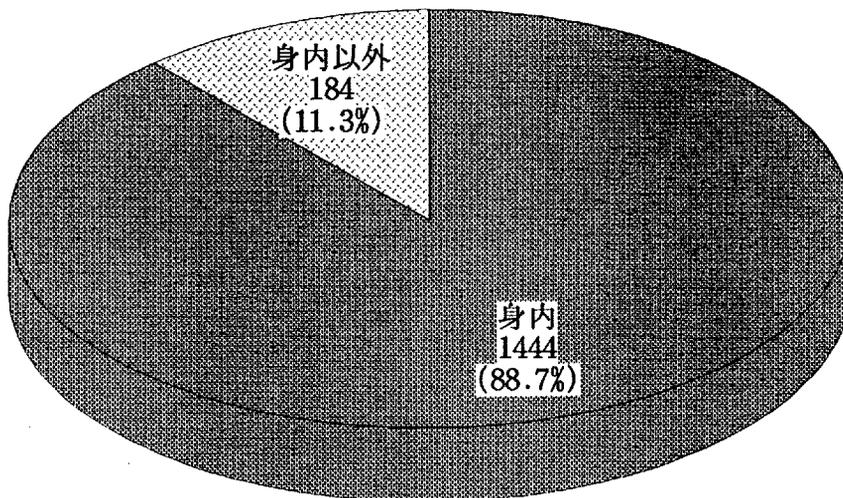


図5. 家事・育児協力者の内訳

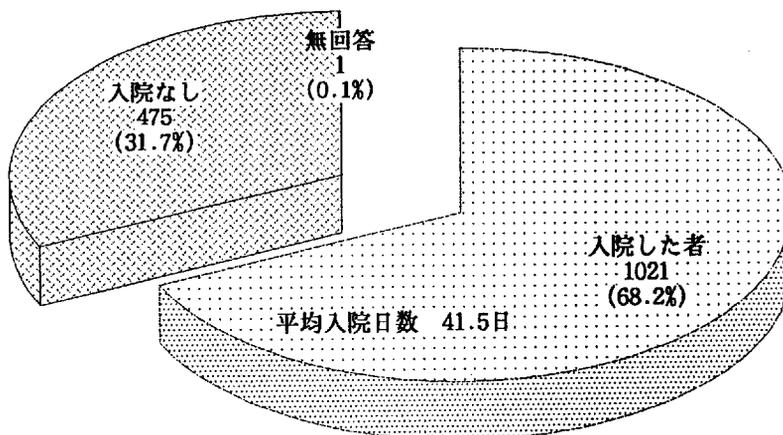


図6. 入院の有無

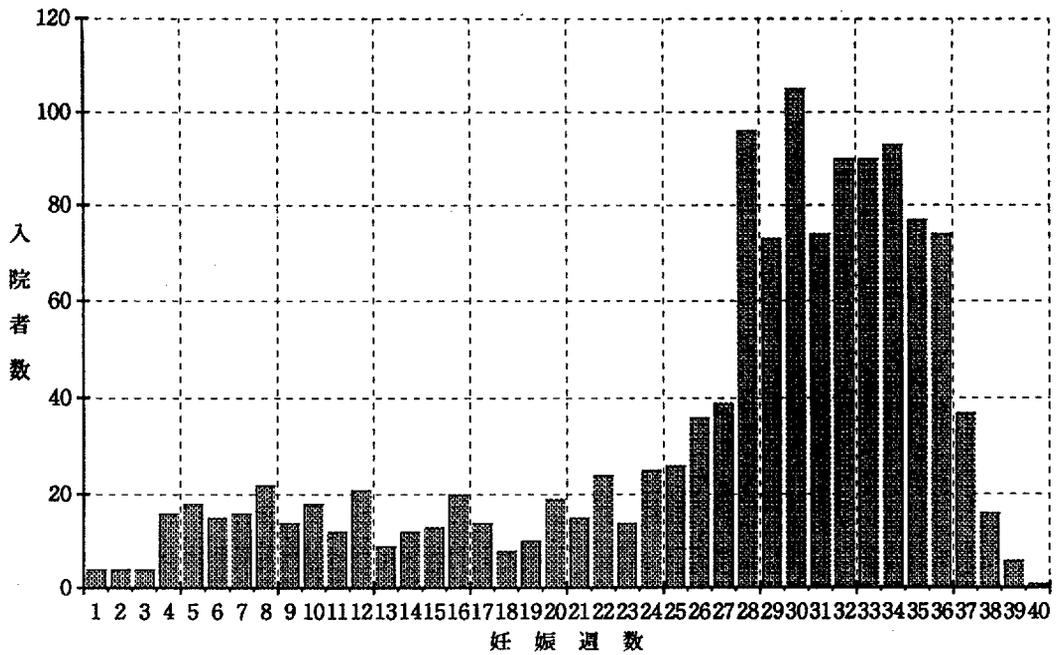


図7. 流産・早産予防等の為の入院者数と妊娠週数

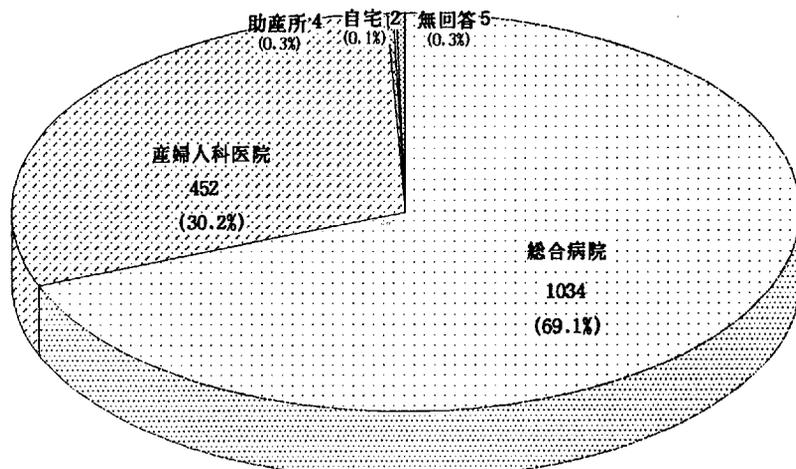


図8. 出産場所

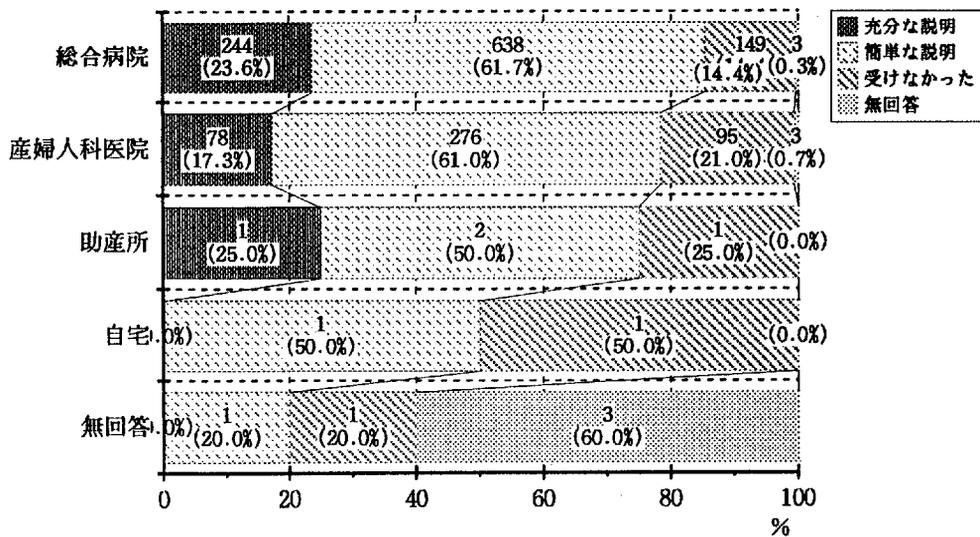


図9. 出産場所と多胎妊娠・出産についての説明

表1. 双子の妊娠期間・出生時体重 (1456組)

出生体重 妊娠期間	500g 未満	500g～	1000g～	1500g～	2000g～	2500g～	3000g～	不詳	総数
総数	1	30	100	390	1,209	957	193	32	2,912
12～23週									
24～27週	1	19	2		1	1			24
28～31週		6	49	30	5	3	1	2	96
32～35週		3	33	192	185	33	1	7	454
36～39週		2	16	160	941	802	144	7	2,072
40週以上				4	69	100	43		216
不詳				4	8	18	4	16	50

表2. 三つ子の妊娠期間・出生時体重 (38組)

出生体重 妊娠期間	500g 未満	500g～	1000g～	1500g～	2000g～	2500g～	3000g～	不詳	総数
総数		5	28	43	34	4			114
12～23週									
24～27週									
28～31週		4	16	1					21
32～35週			11	38	20				69
36～39週		1	1	4	14	4			24
40週以上									
不詳									

表3. 四つ子の妊娠期間・出生時体重 (3組)

出生体重 妊娠期間	500g 未満	500g～	1000g～	1500g～	2000g～	2500g～	3000g～	不詳	総数
総数		2	6	4					12
12～23週									
24～27週									
28～31週		1	6	1					8
32～35週		1		3					4
36～39週									
40週以上									
不詳									

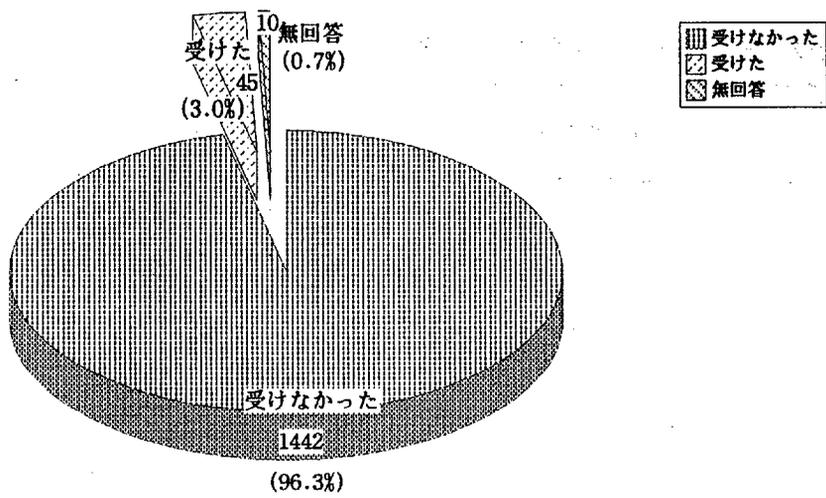


図10. 多胎妊娠を対象とした母親学級・保健指導

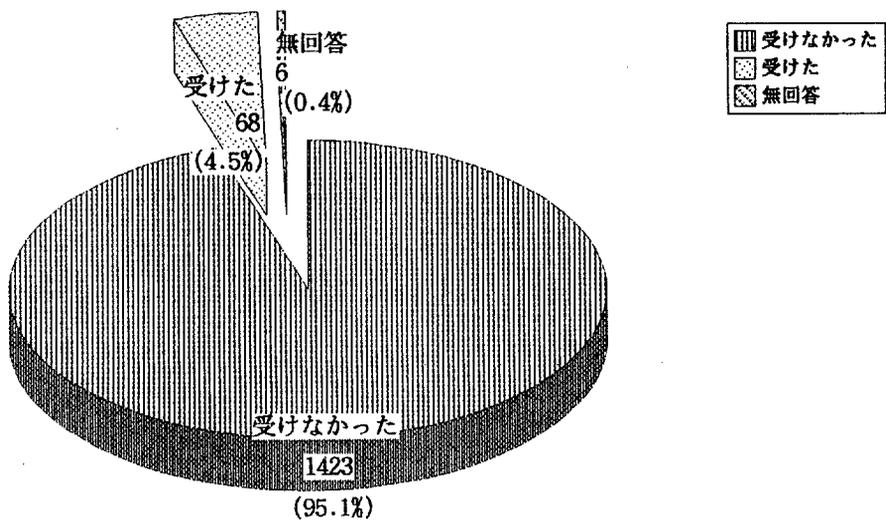


図11. 多胎児を対象とした育児学級・育児指導

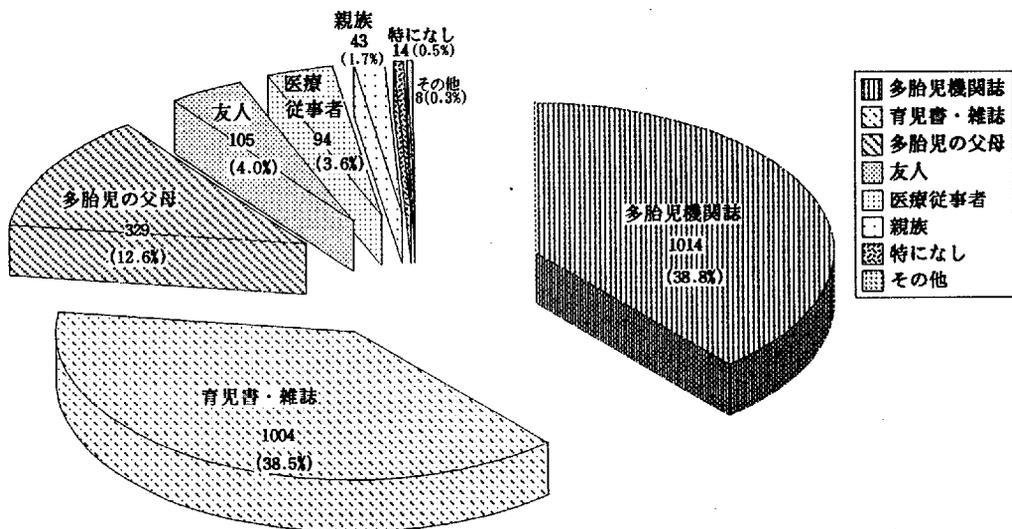


図12. 多胎児育児の知識

表4. 年齢別・多胎児別・月平均育児費用

	双子	三つ子	四つ子
0～1歳	70,000円	100,000円	—
～2歳	80,000円	100,000円	150,000円
～3歳	70,000円	80,000円	—
～4歳	80,000円	100,000円	50,000円
～5歳	90,000円	100,000円	—
～6歳	100,000円	—	—
～7歳	110,000円	—	—
総数の平均	80,000円	90,000円	10,000円

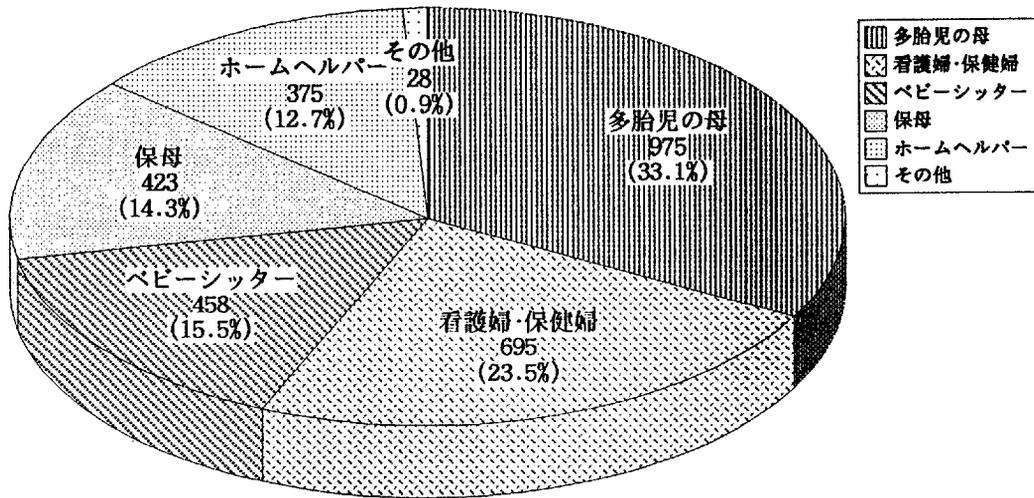
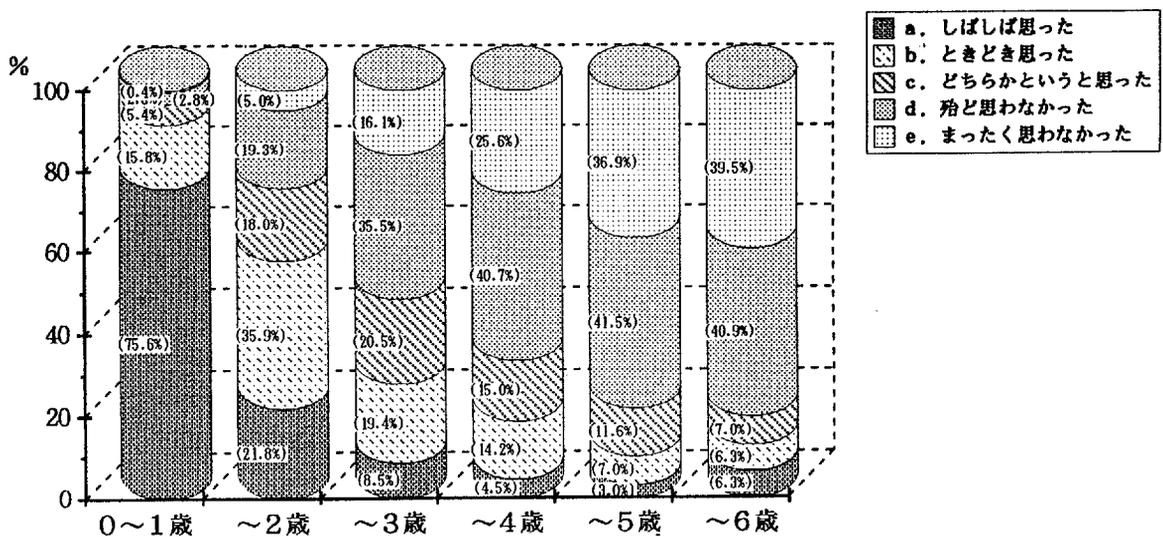


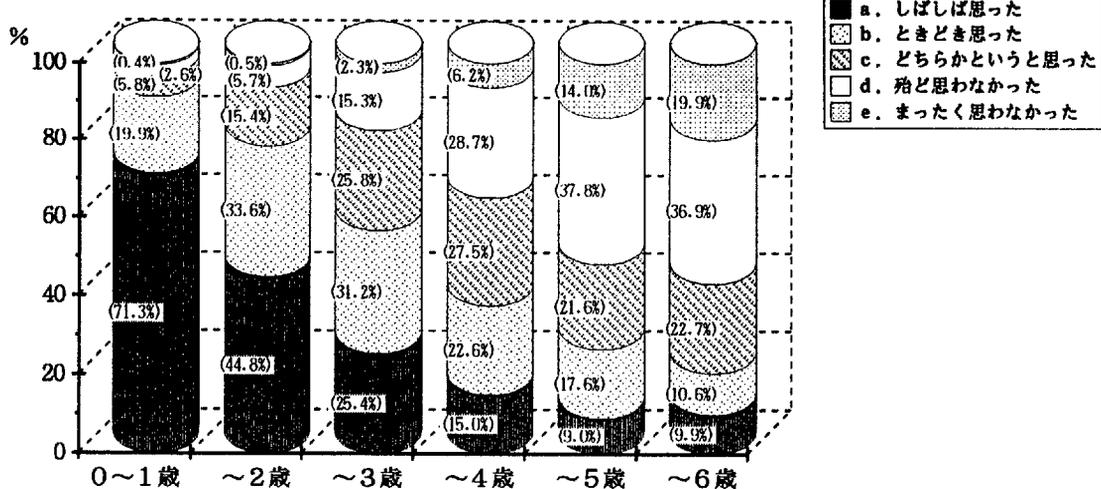
図13. 育児支援のための来訪者の職種

図14. 多胎児年齢別・母親のこころと身体の状態

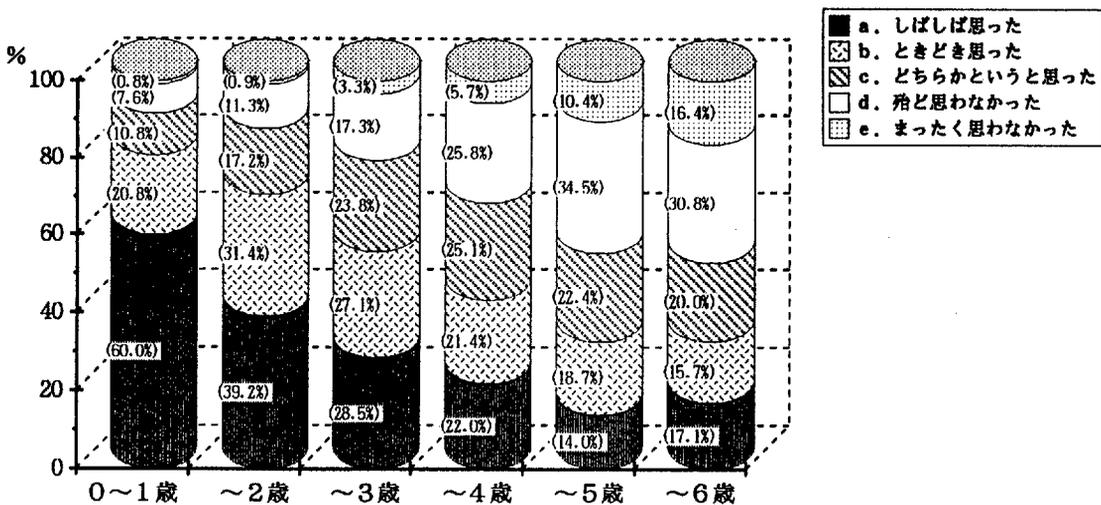
(1) 睡眠がとれない



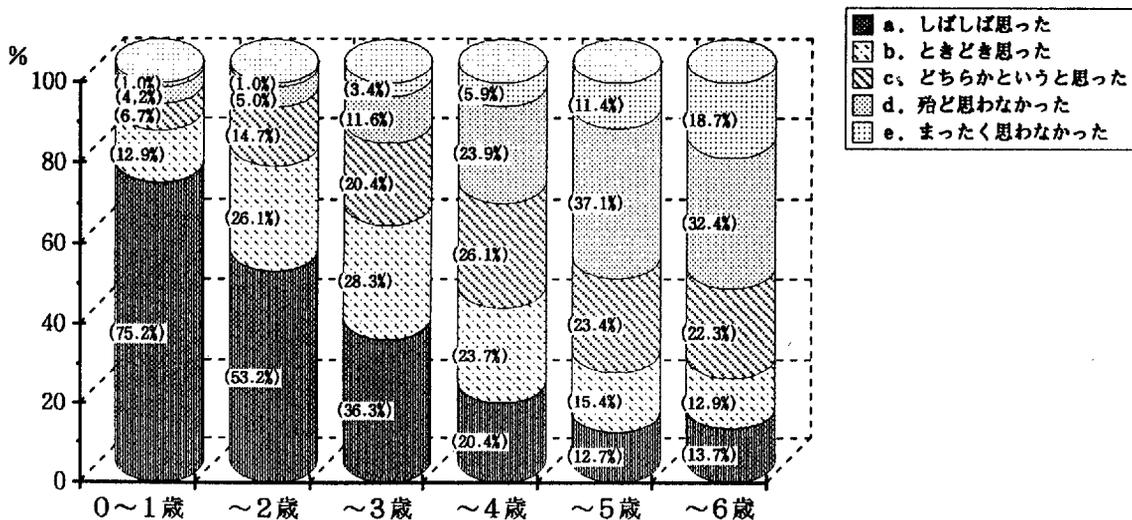
(2) 身体的疲労が大きい



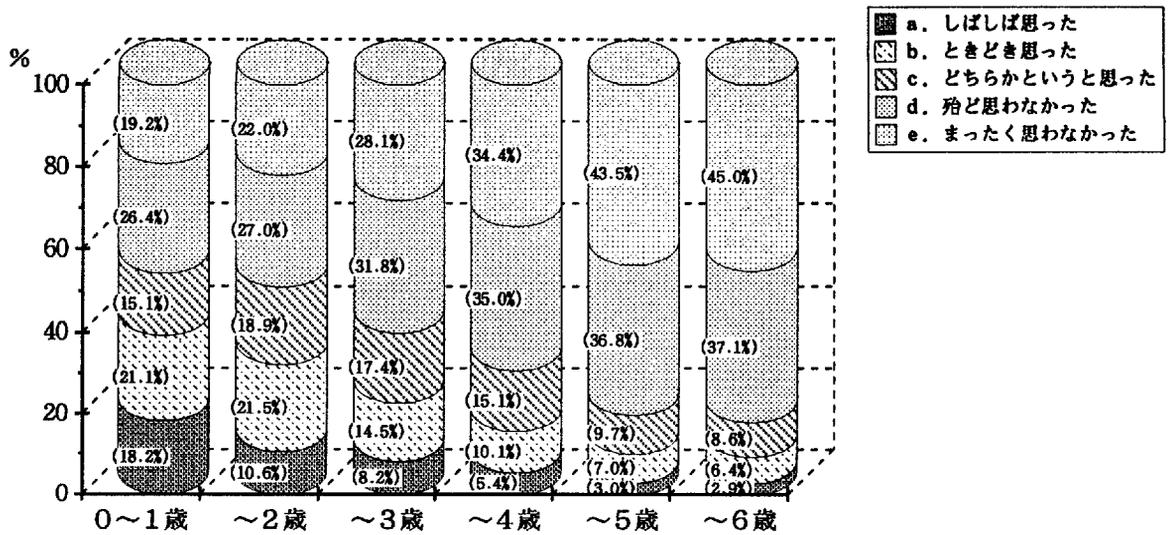
(3) 精神的疲労が大きい



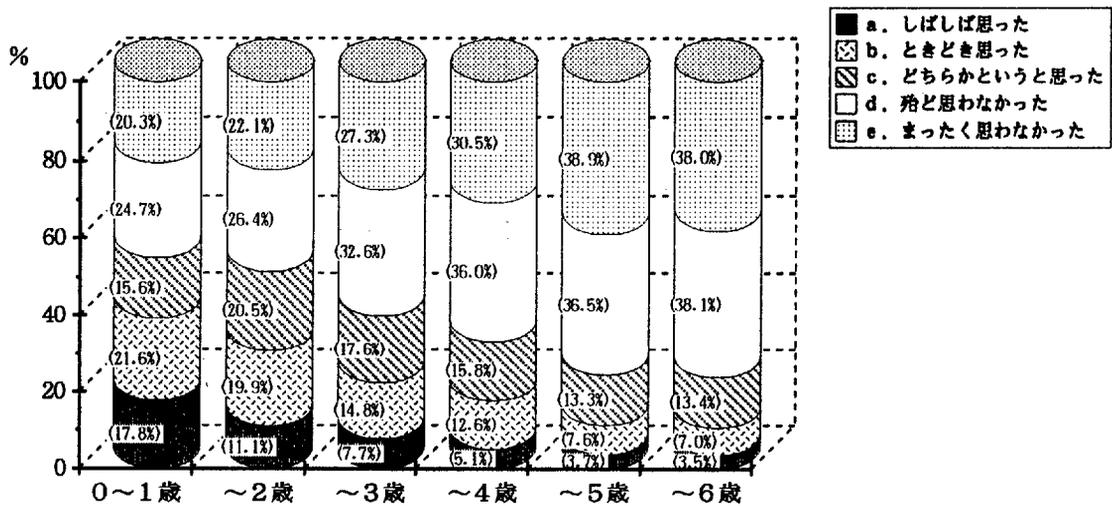
(4) 自分の時間がとれない



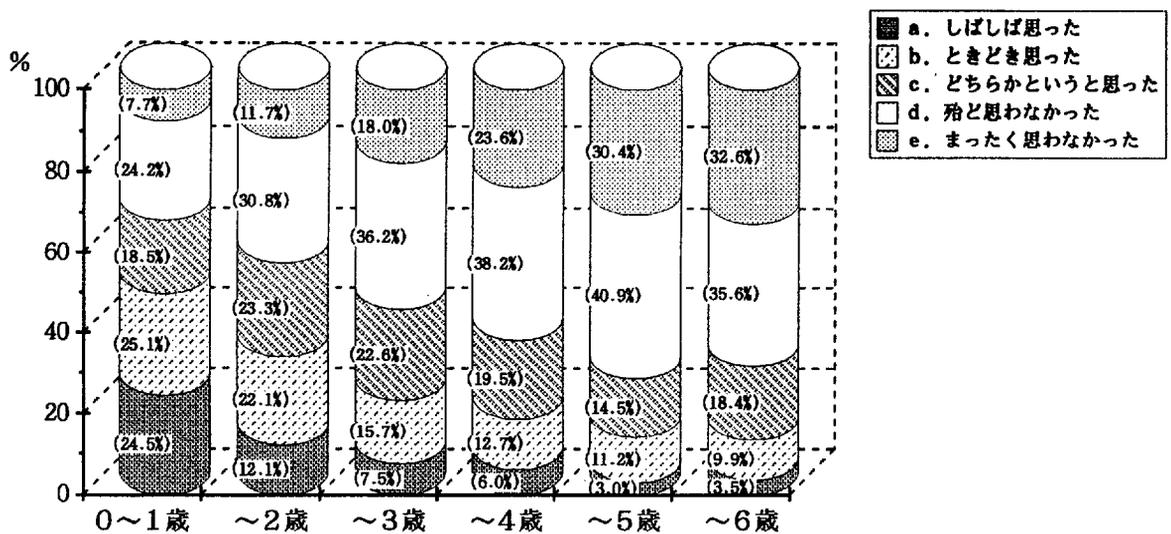
(5) 子供を放りだしたくなる



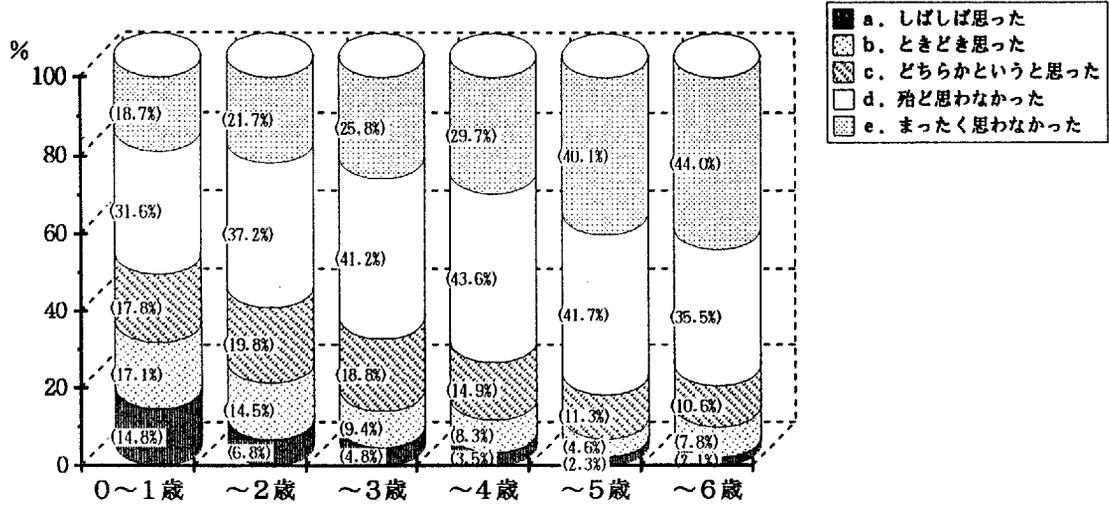
(6) 何もしたくない



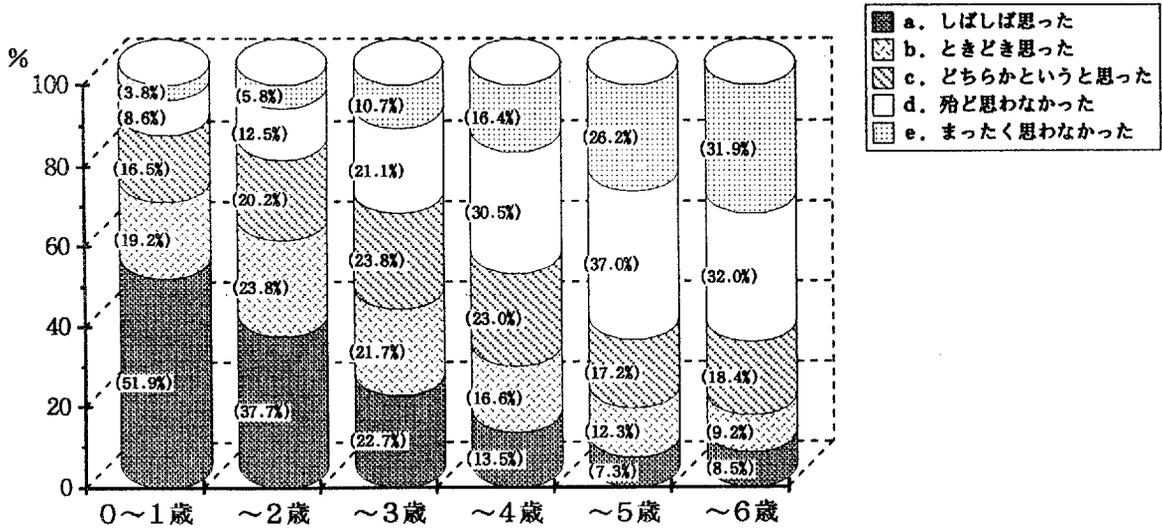
(7) 育児方法がわからない



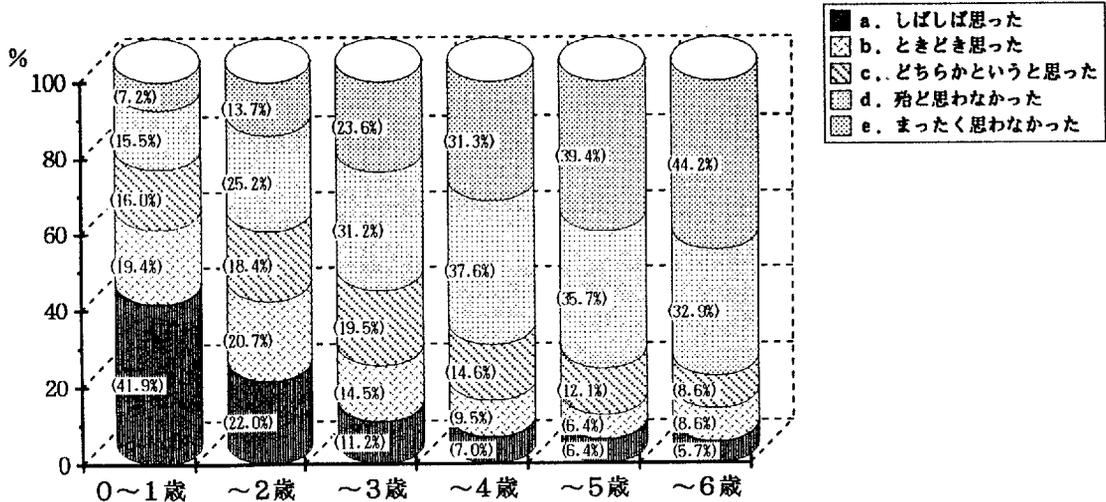
(8) 育児が楽しくない



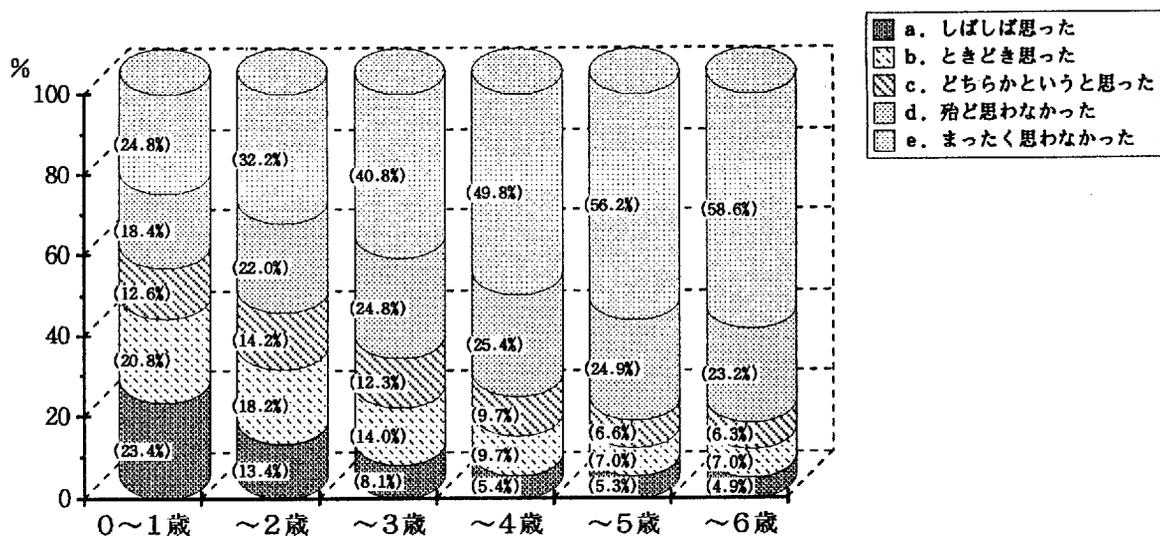
(9) 育児協力者がほしい



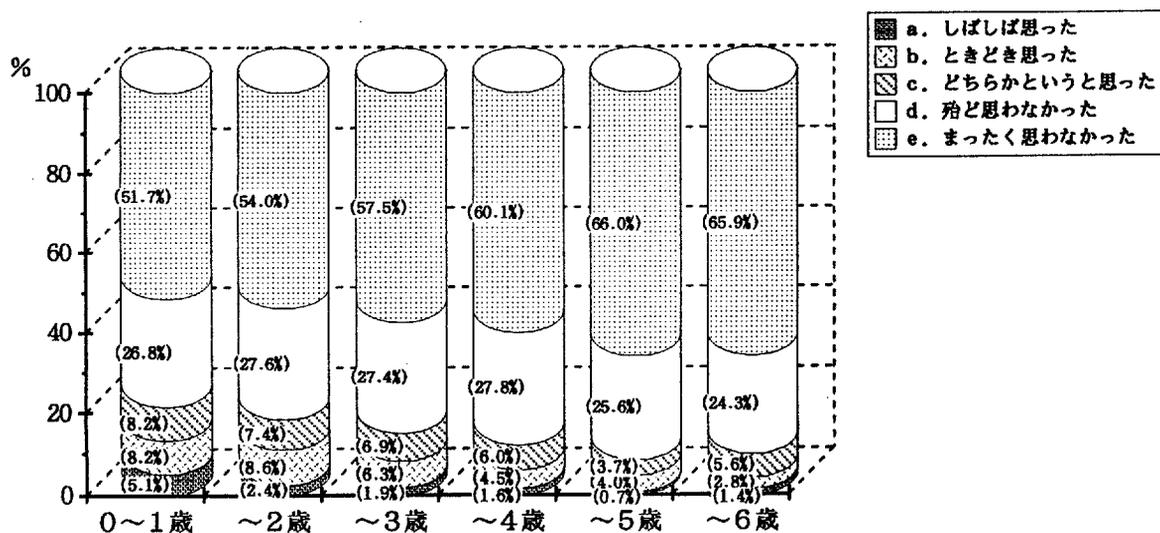
(10) 外遊びの時間がとれない



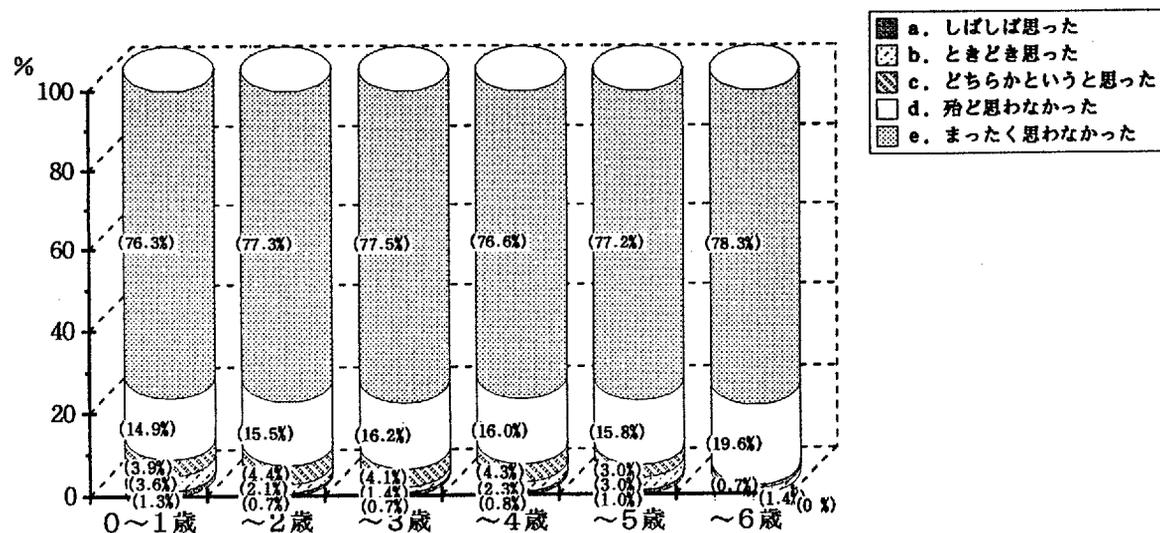
(11) 多胎児でなく一人であったら



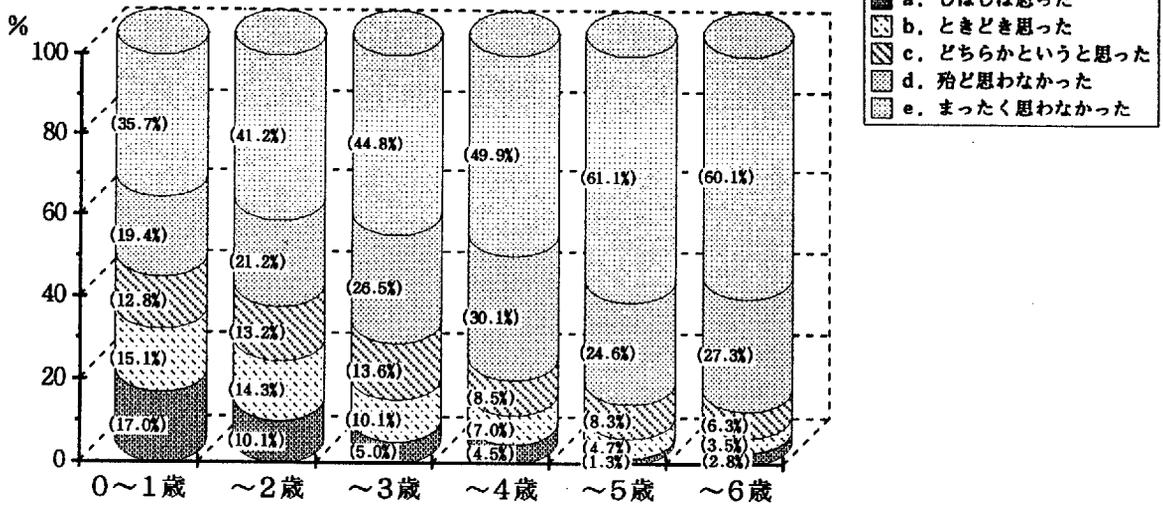
(12) 子供がかわいくない



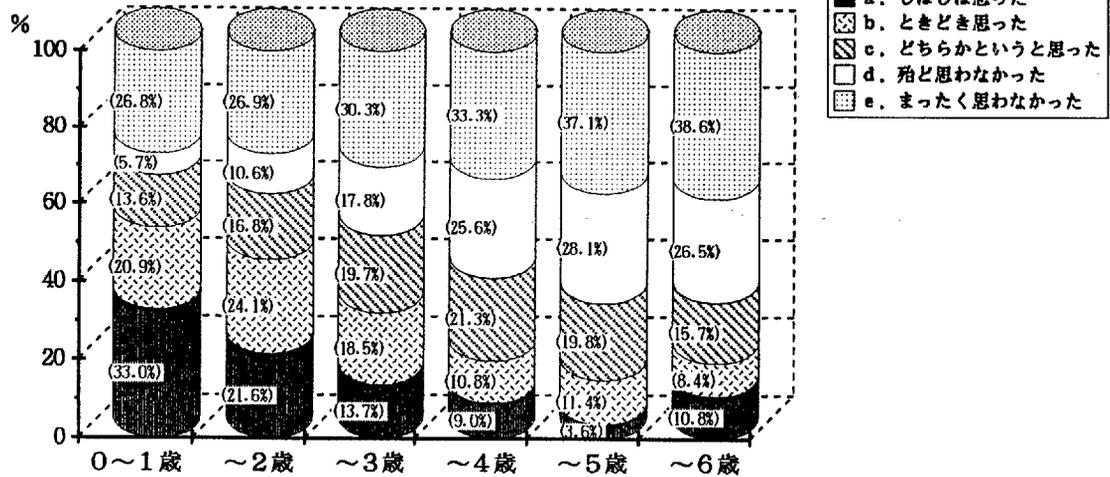
(13) 一人の子供しかかわいくない



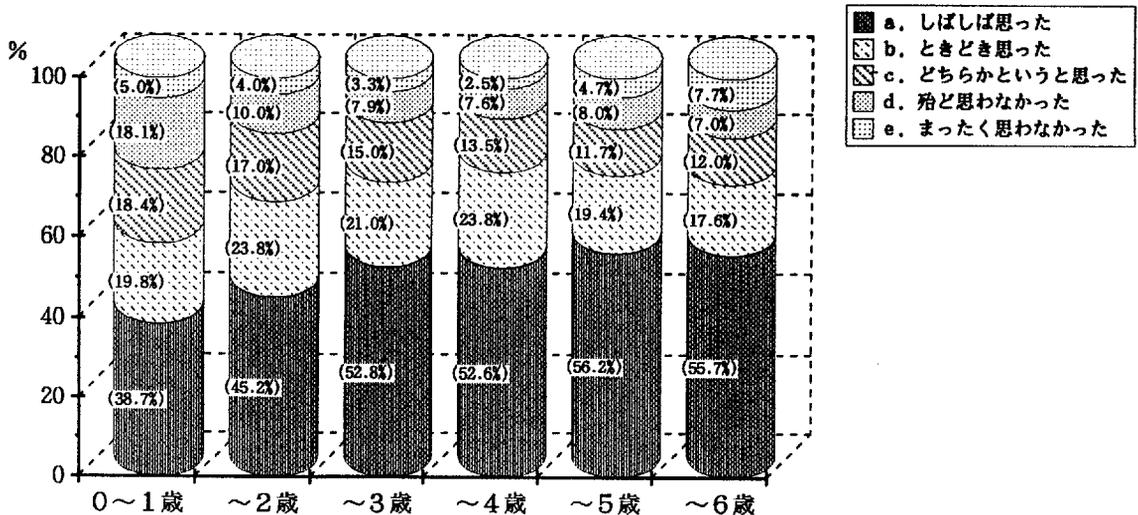
(14) 孤独感におそわれる



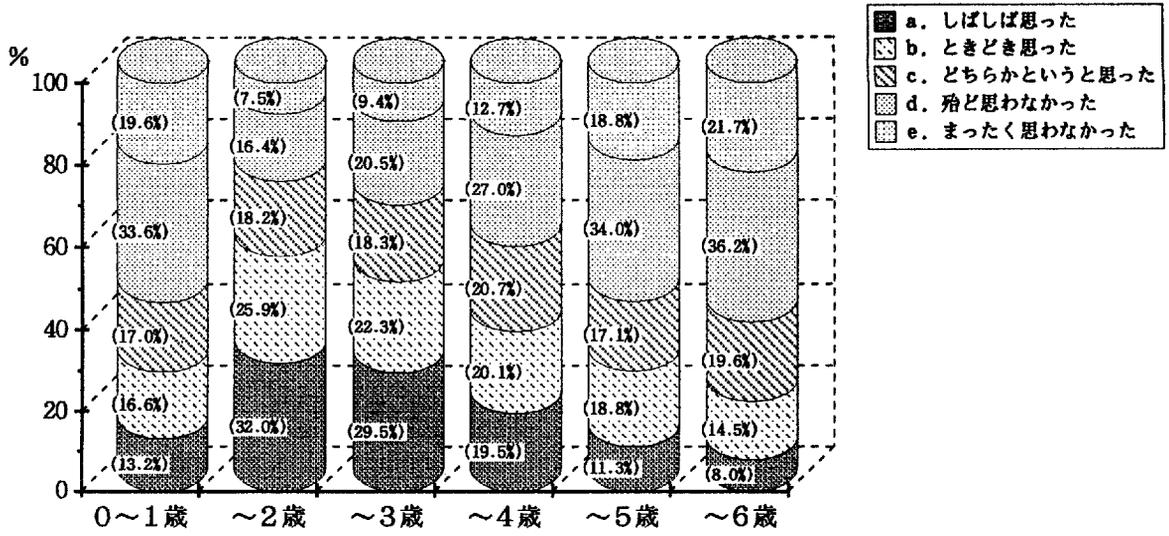
(15) 多胎児以外の子の世話ができない



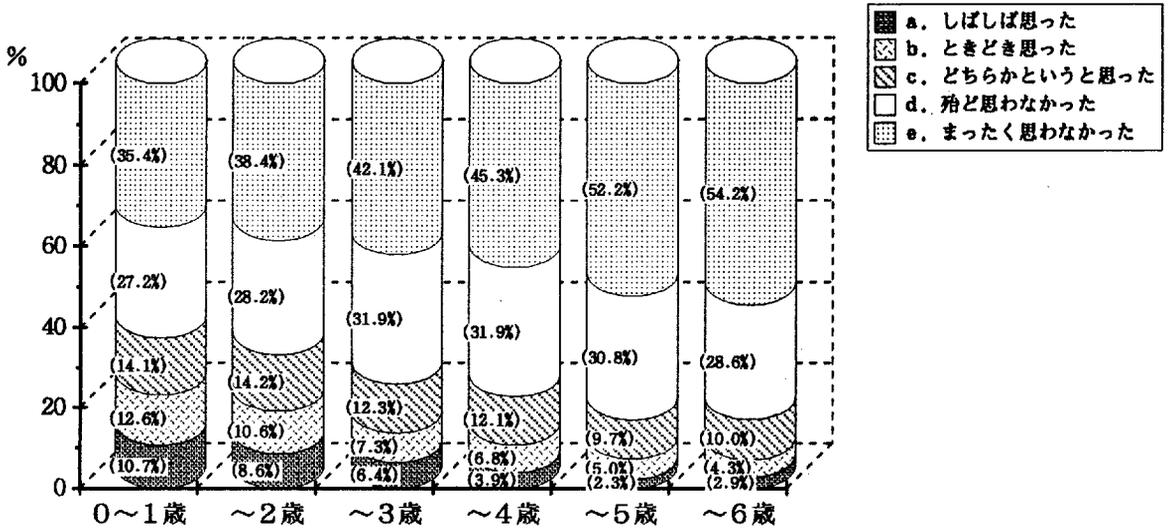
(16) 多胎児を生んでよかった



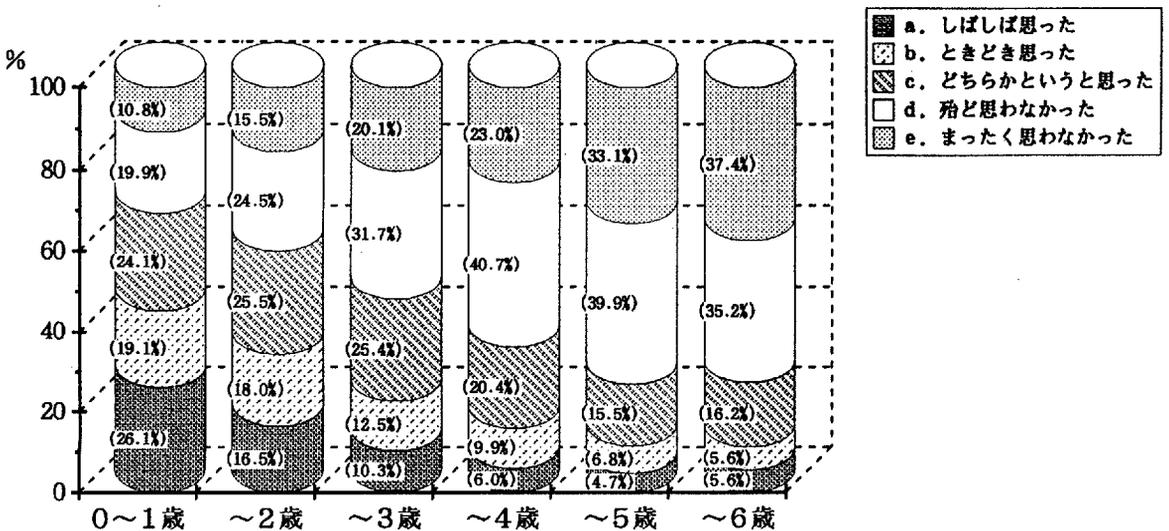
(17) いたずらに手をやっている



(18) 夫婦関係が悪くなった



(19) 夫の世話ができない



(20) 経済的出費がかかる

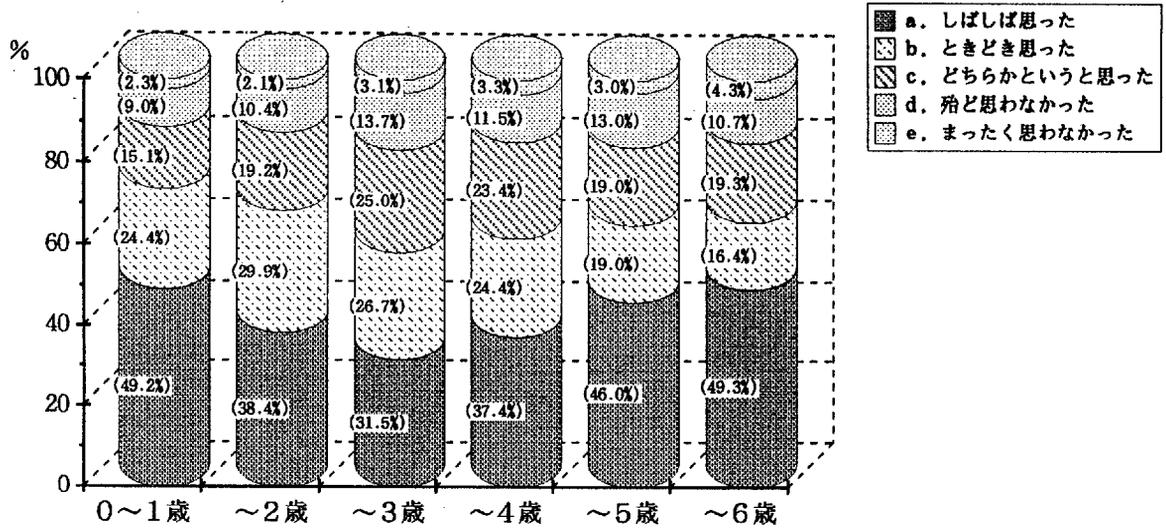


表5. 行政からの支援希望内容

順位	支援希望内容	TOTAL	1位	2位	3位
1位	経済的支援	880	1	6	5
2位	病院受診、保健所での健診、予防接種を受ける時等の外出支援ヘルパー	865	2	2	1
3位	多胎児妊婦や多胎児を育てている父母を対象にした「子育て学級」等の充実	628	3	1	3
4位	多胎児用ベビーカーでも外出しやすい様に道路や公園等の環境整備	484	6	3	2
5位	ホームヘルパーによる家事支援	369	5	4	6
6位	母親が就労していなくても多胎児の場合は保育所に入所させてほしい	344	4	5	8
7位	多胎児育児経験者による友愛訪問	246	9	7	4
8位	保母による育児支援	203	7	8	9
9位	看護婦、保健婦による育児支援	173	8	9	10
10位	医学、看護、教育、保育を学ぶ学生に対して、多胎児に関する教育の充実	172	10	10	7
11位	ツインマザーズクラブ等への補助金支給	55	11	11	11
	無回答	72			



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 約:多胎妊娠・出産をとりまく現状と、多胎児を育てる母親の意識を知る為に、全国規模のアンケート調査を行った。その結果、多胎妊娠・出産、及び、多胎児の育児方法について、専門家から十分な知識を得るチャンスも少ないまま、不安を感じながら過労状態で、育児を行っている母親の姿が認められた。今後医療・福祉面からも強力なバックアップと、具体的な育児支援が急務である。